

一般社団法人 環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会
2020 学会賞受賞者と授賞理由

【学会賞】 米田 稔 氏 (京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授)

米田氏は環境放射能の権威であるが、当学会発足当初より理事として学会運営に携わっていただき、また第2代学会長に就任していただいた。第8回環境放射能除染研究発表会では実行委員長として開催を主導された。更には、学会誌の発行にあたって編集委員として学術誌の質の向上に貢献するなど多大の貢献をされた。

【学術賞】 山田 一夫 氏 (国立研究開発法人 国立環境研究所)

山田氏は放射性セシウムで汚染された土壌の除染や保管に関連して、高性能のセシウム保持体の開発、遮断型最終処分場のコンクリートのひび割れリスクの回避や減容化技術の評価などで、幅広い分野にわたっての除染や貯蔵・再利用に向けて技術開発を先導してきている。

【技術賞】 大林組&ミリオンテクノロジーズ・キャンベラチーム

複数個の大型土のう袋のそれぞれの放射能濃度を積載したままの状態、同時に精度良く測定できる技術を実用化した。本技術は除去土壌の他にも、可燃物やコンクリート等の様々な内容物の放射能濃度測定が可能であり、将来発生するであろう放射性廃棄物の処理処分においても広く活用展開が見込まれる。

本間 健一 氏 (太平洋セメント株式会社)

本間氏は乾式熱処理のプロセスで、放射性セシウムを除去する技術の開発に注力してこられた。添加剤を用いることにより、数万 Bq/kgの放射性セシウム汚染土をクレアランスレベルである 100Bq/kg 以下に低下させる技術の開発に成功した。

【奨励賞】 奥村 大河 氏 (東京大学大学院 理学系研究科・特任研究員)

奥村氏は福島原発事故により環境中に放出した放射性微粒子の構造とその諸特性の解明に尽力された。特にセシウムボールについて電子顕微鏡を用いた形態解明と組成分析についても優秀な成果をあげている。

【功労賞】 島崎 由美 氏 (いであ株式会社)

島崎氏は、本学会設立当初から学会運営、経理関係での指導と実務に労を惜しむことなく支援をしていただいた。研究発表会開催においては、研究発表募集と採否による質の維持、さらにはプログラム・要旨集の編集、事務局の事務支援、発表会や表彰式の運営や司会など、多くのご支援をいただいた。その御苦勞に感謝して功労賞を賞するものである。

学会表彰候補者推薦募集について

環境放射能除染学会は、より一層環境保全の進展に寄与することを目的として、表彰規定に基づき、毎年下記のとおり学会表彰の各賞候補者推薦の募集を行っています。

I 賞の種類等：推薦を募集するのは学会賞、学術賞、技術賞、奨励賞、功労賞の5つの賞です。

- ① **学会賞**：本学会の発展に貢献もしくは環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する分野において特に優れた功績を認められた個人、法人、または団体・グループに贈呈。
- ② **学術賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する学術研究において、顕著な貢献があると認められる個人、法人、または団体・グループに贈呈。
- ③ **技術賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められる個人、法人、または団体・グループに贈呈。
- ④ **奨励賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する一連の論文、著作等、学術的研究成果が特に優れた若手研究者に贈呈。授賞対象者は概ね45歳以下の者とする。
- ⑤ **功労賞**：環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する分野において科学・技術の進歩発展及び環境の改善ならびに本学会の発展に、著しく貢献した個人、法人、または団体・グループに贈呈。

II 応募方法：所定の推薦書（ホームページよりダウンロード）に記入の上学会事務局（office@khjosen.org）までメールにてお送りください。

III 選定方法：皆様よりご推薦いただきました候補者のなかから、表彰委員会が受賞候補者を選定し本学会の会長が理事会に報告、理事会の了承を得たうえで受賞者を決定します。

IV 表彰方法等：各賞受賞者へは、賞状及び副賞を授与することとし、会長が研究発表会開催期間中に表彰するとともに、本学会誌及びホームページに掲載発表いたします。